

# 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Interpregnancy weight change as a potential risk factor for large-for-gestational-age infants: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

出産を終えてから次回妊娠までの体重増加と LGA 児との関連

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター(山梨)

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine

2023 年: DOI: 10.1080/14767058.2023.2209251

筆頭著者名: 篠原 諭史

所属 UC 名: 甲信ユニットセンター(山梨)

目的:

出産を終えてから次回妊娠までの母体の過剰な体重増加が、次回妊娠の際に LGA 児(在胎週数の標準身長・体重に比し、大きく出生した子ども)出産のハイリスクとなることが欧米諸国を中心に報告されています。本邦では欧米と比較して痩せ妊婦が多く、同様の関連が本邦でも認められるか不明であったため検討しました。

方法:

エコチル調査の対象期間に第 1 児と第 2 児を出産した女性 3245 人を対象としました。第 1 児と第 2 児妊娠前の BMI の差を interpregnancy BMI と定義し、interpregnancy BMI を weight loss (BMI loss >1 unit)・weight gain (BMI gain >1 unit)・stable weight (BMI maintained within -1 to <1 unit)の 3 群に分けました。第 2 児の非妊娠時 BMI に基づき、対象女性を BMI <25 kg/m<sup>2</sup> と ≥25 kg/m<sup>2</sup> の 2 群に分類した上で、第 2 児の LGA 出生と interpregnancy BMI との関連をその他のリスク因子を含む多変量解析にて評価しました。

結果:

LGA 児は 276 人で全体の 8.6%を占めていました。非妊娠時 BMI が <25 kg/m<sup>2</sup> の群では weight gain が LGA 児と有意な関連を認めましたが、非妊娠時 BMI が >25 kg/m<sup>2</sup> の群では interpregnancy BMI と LGA との間に有意な関連はありませんでした。

考察(研究の限界を含める):

本邦において正常体格の女性では、出産を終えてから次回妊娠までの体重増加が LGA 児のリスクを上昇させることがわかりましたが、肥満女性において同様の関連はありませんでした。これは肥満自体が LGA 児の重要なリスク因子であることの裏付けとなっている可能性があります。LGA 児は、分娩時大量出血・帝王切開・重篤な産道裂傷・肩甲難産などを引き起こすことが知られています。産褥検診の際に正常体格の女性には、過剰な体重増加を避けるように、肥満女性には次回妊娠までに減量を検討するようにアドバイスしても良いかもしれません。研究の限界点としては、LGA 児のリスク因子となる先天的な疾患を検討していないことが挙げられます。

結論:

第 2 児を検討している女性に対して、interpregnancy BMI と LGA 児と関連について理解してもらうことが、周産期合併症を減らすことに繋がるかもしれません。